

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-152	15-313	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Randomized Trial of the Effect of Four Second-Generation Antipsychotics and One First-Generation Antipsychotic on Cigarette Smoking, Alcohol, and Drug Use in Chronic Schizophrenia. 4つの第二世代抗精神病薬と1つの第一世代抗精神病薬の慢性統合失調症患者における喫煙、アルコールと薬物使用に関する無作為試験		
執筆者		
Mohamed S, Rosenheck RA, Lin H, Swartz M, McEvoy J, Stroup S.		
掲載誌		
J Nerv Ment Dis. 2015 Jul;203(7):486-92. doi: 10.1097/NMD.0000000000000317.		
キーワード		PMID:
抗精神病薬、統合失調		26075840
要 旨		
<p>統合失調症患者のアルコール、薬物とニコチン利用に関して異なる第二世代の抗精神病薬と少しの第一世代の薬の作用を比較した大規模無作為試験はなかった。Clinical Antipsychotic Trial of Intervention Effectiveness(抗精神病薬の効果に関する臨床研究)では、4つの第二世代抗精神病薬(オランザピン、リスペリドン・クエチアピンとジプラシドン)と1つの第一世代抗精神病薬(ペルフェナジン)を精神分裂症と診断された1432例の患者を無作為割付けして、最高18ヵ月の間投与した。第2の評価データは、過去の喫煙歴とアルコールと薬物の使用重症度評価であった。試験開始時に、患者の61%が喫煙し、35%はアルコールを飲み、23%は不法薬物を使用していた。</p> <p>18ヵ月の間に薬物使用の経時的な減少を示す有意な効果(すべての$p < 0.0001$)があったにもかかわらず、本研究では大規模な18ヵ月間の無作為精神分裂症試験から薬物使用結果に関するデータの第2の分析でどの抗精神病薬が他のものより強く優れていたという証拠は明らかではなかった。</p>		